往復連載

ドーバー越えて

齋藤敦子 中野香織

服飾史家である中野香織さんと、映画評論家で字幕翻訳家の齋藤敦子さんの往復書簡的コラム。ファッション誌の映画コラムニストとフランス映画社宣伝部員として出会った中野さんと齋藤さんは、以来10数年、友情を育む。この連載では、イギリス文化とフランス映画という専門分野をベースに映画談議が交わされる。

カット・井上陽子

中野香織

⑫やつしの美学の継承者は？

ベルリンで映画漬けの齋藤敦子さま。

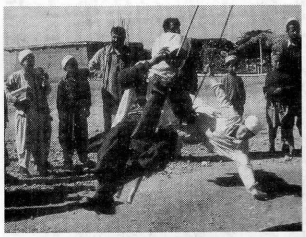
今朝の新聞で、金熊賞がイギリスのマイケル・ウィンターボトム作品に決まったことを知りました。かつて敦子さんが「頭がよすぎて心がない感じがする」と評した、あのウィンターボトムですね。名前からして冷たい。「冬のどん底」（訳すな）。今回の受賞作品には「心」はありましたか。

さて、映画祭情報とともに気になるのがコレクション情報で、いま、「ロンドン・ファッション・ウィーク」に目が釘付けです。今シーズンもっとも話題のデザイナーはといえば、サディ・フロスト。女優業のかたわら、「フロスト・フレンチ」というブランドのデザイナーもやってるんですが、はっきり言って彼女がどんな服を提案するかってことには誰も興味がないの。ジュード・ロウとの離婚はどうなるのかという下世話な関心だけで注目を浴びているわけです。報じられるところによれば、ジュードが浮気相手のニコール・キッドマンに贈ったマノロ・ブラニク（ビッチなセレブ御用達の靴ブランドね）の700ポンド（約14万円）の靴が間違って自宅に送られてしまい、箱の中にあったニコール宛のラブレターをフロスト（「冷たい霜」だ）が見たとか（ジュードは否定してるけど）。

それにしても引っかかるのは、最近のイギリスのメディアのラグジュアリ・ブランド好き。マノロ・ブラニクについては大新聞までが何度か提灯記事を書いていて、ひょっとしてこの記事もタイアップかと勘ぐったくらい。

タイアップを勘ぐりたくなるのは活字だけじゃなくて、新作のボンド映画「007／ダイ・アナザー・デイ」も。ラグジュアリ・ブランドの広告映画かと思いましたよ。アストン・マーチンのスーパーカーにブリオーニのスーツ、ラ・ペルラの水着にヴェルサーチェのドレス、悪役君までジャガーにドル&ガバにグッチにプラダ、動くカタログとしては大成功なのでは？　思想もメッセージも皆無という映画の性格はカタログにとってはおおいにプラスだし。

国籍不明のモデルのような登場人物たちのなかで、唯一、土着イギリス人ぽい親しみを感じたのがジョン・クリースのQ。ボンドがQに「あんたは見かけよりも頭がいい」というのに対し、Qが「頭よりも見かけがいいのよりマシだろ」と切り返したセリフの皮肉が効いてました。イギリス男子の「やつし」の美学を正しく楽しんでいるのは、どんな時も正体ばればれの（というかわざわざ名乗っちゃう）スパイ・ボンドではなく、Qだったんですね。



「In This World」ウィンターボトム監督作、第53回ベルリン国際映画祭金熊賞受賞。